

第13回

日・韓・中ジュニア交流競技会

報 告 書



平成17年8月24日(水)～28日(日)
北海道野幌総合運動公園テニスコート

第13回 日・韓・中ジュニア交流競技会参加メンバー

団 長	大森 徹
男子監督	越善 隆
女子監督	吉田洋子
男子選手	富崎優也 (龍谷高校)
	有松達矢 (東京学館浦安)
	千葉直也 (札幌藻岩)
	佐野紘一 (明石城西)
女子選手	菅村彩香 (仁愛女子)
	中西未希子 (園田学園)
	古賀愛美 (筑陽学園)
	川村美夏 (共栄学園)



男子成績

初 日 (8 月 25 日)

	日 本		3 - 2	韓 国
S 1	富崎優也	○	6 - 1 , 6 - 2	YOON.Yo-Sub
S 2	佐野紘一		6 - 3 , 3 - 6 , 0 - 1 (6)	OH.Sang-O h
S 3	有松達矢	○	6 - 4 , 7 - 6 (6)	MUN.Ju-Hae
S 4	千葉直也		4 - 6 , 6 - 4 , 0 - 1 (9)	LEE.Dong-Kyu
D	富崎優也 有松達矢	○	3 - 6 , 6 - 3 , 1 - 0 (4)	LEE.Dong-Kyu OH.Sang-O h

二日目 (8 月 26 日)

	日 本		2 - 3	中 国
S 1	富崎優也		2 - 6 , 4 - 6	XU.Junchao
S 2	千葉直也		3 - 6 , 4 - 6	YIN.Xiaolong
S 3	佐野紘一	○	6 - 3 , 6 - 2	WU.Chenyu
S 4	有松達矢	○	7 - 5 , 6 - 2	ZHOU.Zhuoqing
D	千葉直也 佐野紘一		2 - 6 , 6 - 2 , 0 - 1 (6)	XU.Junchao YIN.Xiaolong

三日目 (8 月 27 日)

	日 本		5 - 0	北海道
S 1	千葉直也	○	6 - 0 , 6 - 2	宮原晃大
S 2	有松達矢	○	6 - 0 , 6 - 4	佐藤悠太
S 3	佐野紘一	○	6 - 0 , 6 - 0	岡田 真
S 4	富崎優也	○	6 - 2 , 6 - 0	佐藤翔太
D	富崎優也 有松達矢	○	6 - 2 , 6 - 2	岡田 真 佐藤翔太

女子成績

初 日 (8 月 25 日)

	日 本		1 - 4	韓 国
S 1	川村美夏		4 - 6 , 4 - 6	BYUN.Hye-Mi
S 2	古賀愛美	○	6 - 3 , 6 - 4	SEO.Soon-Mi
S 3	中西未希子		4 - 6 , 2 - 6	BAEK.Na-Hyun
S 4	菅原彩香		6 - 4 , 2 - 6 , 0 - 1 (5)	SHIN.Jung-yoon
D	古賀愛美 菅原彩香		3 - 6 , 0 - 6	BYUN.Hye-Mi BAEK.Na-Hyun

二日目 (8 月 26 日)

	日 本		2 - 3	中 国
S 1	川村美夏		2 - 6 , 3 - 6	REN.Jing
S 2	古賀愛美		3 - 6 , 6 - 4 , 0 - 1 (10)	GUO.Xuanyu
S 3	中西未希子		4 - 6 , 6 - 4 , 0 - 1 (5)	WU.Shuang
S 4	菅原彩香	○	6 - 2 , 6 - 3	YANG.Yi
D	川村美夏 中西未希子	○	6 - 7 (4) , 6 - 3 , 1 - 0 (3)	REN.Jing WU.Shuang

三日目 (8 月 27 日)

	日 本		2 - 3	北海道
S 1	古賀愛美		棄権	渡邊廣乃
S 2	菅原彩香		6 - 4 , 6 - 7 (2) , 0 - 1 (3)	藤原 舞
S 3	川村美夏	○	6 - 4 , 6 - 1	堀 舞美
S 4	中西未希子	○	6 - 1 , 6 - 2	臼木李紗
D	川村美夏 中西未希子		4 - 6 , 6 - 4 , 0 - 1 (5)	渡邊廣乃 堀 舞美



第 13 回 日・韓・中ジュニア交流競技会を終えて

男子監督 越善 隆

はじめに

アジア近隣諸国との青少年スポーツ交流を促進し、これを通じて相互理解を深め、競技力の向上を目的として行われているこの大会も 13 回目を向かえました。過去 12 回のうち、日本で行なわれた第 7 回広島大会・第 10 回熊本大会、韓国で行なわれた第 8 回全州大会と今回の北海道大会に監督として 4 回目の参加をさせていただきました。そういう意味での大会に対する思いも人一倍あるものと思っています。

試合

参加して毎回思うことですが、試合の方法が確定されていないということです。試合の

前日に監督会議（レフェリー・団長・監督参加）において、使用コート面数等が確定されていない上に、前例にならば、3セットマッチであるがセットオールの際の最終セットはタイブレークのみの変則的な試合方法である。このやり方には、時間・コート面数そして、交流試合である等の状況を考慮すれば、納得のできる方法であるし、ファイナルセットタイブレークもよそにはないスリリングなものである。しかし、このルールを他国に説明しようとするれば通訳がテニスの理解者でないため、かなりの時間をかけなければならず、過去3回も同様なことであったように記憶している。

そのような監督会議も終了し、いざ試合となった。オーダーは韓国戦はNO1から富崎(龍谷)・佐野(明石城西)・有松(東京学館浦安)・千葉(札幌藻岩)、ダブルスは富崎・有松組で、シングルス2勝2敗で最後ダブルスに勝敗がかかり、ファイナルタイブレークで勝利し3-2で日本が勝った。逆に中国戦はシングルス2勝2敗でダブルスファイナルタイブレークで惜敗し、ポイント2-3で敗れた。

男子日本チームはチームワークもよく日ごろの実力を充分発揮したものとする。

最後に

北海道大会は前回参加した3回にも増して、地元のテニスを楽しむ方々の熱意が至る所で感じられた。北海道は国際大会が少ないからと、大会運営を心配していた方がありましたが、全くそのような事はなく、心温まる大会であったと思います。また、参加した日本選手は礼儀正しく、テニスに対する思いも強くこれからの益々の活躍が期待できるような選手達でした。日ごろから各校でよく指導されているのではないのでしょうか。関係者各位に深く感謝申し上げます。

この大会がアジアのジュニアテニス選手の目標となり、また交流の場となることを祈念して報告とさせていただきます。

女子監督 吉田洋子

私は女子の監督として、感じたことを少しだけ書かせていただきます。まず最初に、昨年に引き続き今年も日・韓・中のトップ同士の試合を監督することができたことを光栄に思いますし、また感謝しております。

日本と中国の試合は今までなかなか勝つことができず、負けてばかりでしたが、今回の試合ではタイブレークに持ちこむ試合が多く、あと一歩頑張ったら勝てそうな試合ばかりだったと思います。しかしタイブレークになると中国選手はやたら強気で「そんなショットが打てるのなら最初から打てばいいのに・・・」といいたくなるほど凄い球を炸裂していました。でも日本の選手もそれに劣ることなく、速い球を速い球で打ち返していたので、タイブレーク中はずっとハラハラ・ドキドキの試合展開でした。中国選手とは、なんといい

っても体格が違うので、普通に打ち合っている、NO1,NO2の選手相手には厳しいと感じました。中国選手のような相手には、辛抱強くねばることが一番の武器ではないかと感じました。その粘りが試合の随所にみられたので、中国戦はもう少しで勝てそうでした。とても惜しい試合だったと思います。

北海道との試合では残念ながら負けてしまいましたが、古賀さんの怪我がなく、NO1,NO2同士で試合をしていたら、普通に勝てたと思います。私の立場としては何とも言えませんが、全国の選抜チームというのは臨時的な団体チームですので、チームプレーがなかったとは言えませんが、その意識が薄かったというところで、北海道チームのダブルスと比較して選抜チームは少し不利だったように思いました。

最後に、全体的に振り返って、高いレベルの試合を観戦し監る事ができてとても良かったです。



佐野紘一（明石城西）

まさか、自分が日本代表選手に選ばれると思っていなかったのに、荒井監督から札幌行きを聞かされたとき、とても驚いたと同時にうれしく思いました。自分の実力から考えて、代表選手として十分な働きができるか不安もありましたが、自分のプレーヤーとしての幅を広げるチャンスと考え、精一杯プレーしようと気持ちを切り替えて参加しました。

外国の選手と試合をするのは、名古屋でのスーパージュニア以来だったので、少し緊張しました。実際に試合をしてみても感じたのは、ボールが重いということです。それと、サーブ力の違いも感じました。同じような体格の選手たちでも、筋力がある上に柔軟性を兼ね備えていました。基本的なフィジカル面のトレーニングの必要性を痛感しました。

中国、韓国選手のメンタル面での強さも印象的でした。自分の出場した3試合中2試合で、マッチポイントを握りながら負けてしまいました。特に韓国戦のシングルスで、ファイナルセットタイブレーク6-1リードから逆転勝ちされた試合では、相手の精神力の強さを感じるより、自分の弱さに情けなくなりました。逆の展開ができる、また1ポイントをおろそかにしない精神的なタフネスを身につけたいと思います。

普段会う機会の少ない日本選手と練習し、緊張感のなかで一体感を持って、団体戦を行なったことも貴重な経験でした。今後も今回一緒のチームでプレーした選手たちとの交友を大事にしていきます。

韓国・中国の選手たちとも仲良くなりましたが、自分の語学力不足のために、十分なコミュニケーションができなかったのが大変残念でした。テニス馬鹿になっても、テニスしかできない馬鹿にはならないよう、英語の勉強も頑張りたいと思います。

最後になりましたが、この交流試合の運営にかかわった皆様に感謝し、貴重な経験をさせていただいたことを無駄にしないよう、より上のレベルを目指して、これからもっともっと練習していきたいと思います。ありがとうございました。

有松達矢（東京学館浦安）

今回の親善試合に選出されたことに驚きとともに本当にうれしく思います。テニスをつけて今日まで日本の代表、ナショナルといったメンバーに選ばれたことがなく、日本代表として恥ずかしくない試合をしようと期待と希望で一杯でした。しかしその影には不安が隠れていて、それを取り除いてくれたのは大森代表や越善監督、そしてメンバーがいい人達だったからです。

集合して次の日から試合だったのが、余計なことを考えずにやれて、結果としては良かったと思います。最初の韓国との試合で勝てたことが自分にとって大きな自信となりました。オムニコートというアドバンテージが自分にあったからとはいえ、日本代表として戦

う責任の重さの中、悪いなりに良くやれたと思います。そのきっかけで次のダブルスや中国戦でも、自信を持ち臆せず戦えたと思います。また、自分以上に仲間のメンバーが良く頑張ってくれたから、韓国戦に勝ち、中国に善戦することができたのだと思います。

これから自分は大学でテニスが続けていきますが、今回代表メンバーに選出されたこと、韓国・中国相手に気持ちで負けず勝てたことに自信を持ち、自分のテニスを良くしていくため、これからも努力を続けていきたいと思います。また、仲間と過ごした日々を自分は決して忘れません。

今回の大会で自分が思った改良点としては、氷の配給をして欲しかったことと、ストリンガーを会場において欲しかったこと、詳しい日程の資料を事前に配って欲しかったことです。驚沢を言って申し訳ないですが、正直な気持ち・思ったことなので改良して欲しいです。

最後に、大会レフェリーの方や審判の方々、大会関係者のみなさん、わざわざ貴重な休みの日にありがとうございました。そして、日本代表チームの皆さんにも心から感謝したいと思います。

富崎優也（龍谷）

僕は今回、日・韓・中ジュニア交流競技会に参加して、日本代表選手として韓国や中国の選手と試合ができたことをとてもうれしく思いました。

試合の初日は韓国とでした。僕はシングルス1で出させてもらって、韓国のシングルス1とでした。相手はパワーがあり、スピン系のボールでどんどん攻めてくるプレーヤーでした。この試合は相手の強打をしのいでチャンスがきたら攻めるというプレーが出来たので、楽に勝つことができ、少し自信がつかしました。ダブルスは有松君と組んで出させてもらいました。有松君とははじめて組んでの試合だったのですが、お互いに集中して試合ができ、結果的に勝つことができたので良かったと思います。

二日目は中国戦でした。僕はまたシングルス1で出させてもらったのですが、負けてしまいました。敗因は相手のプレーに合わせてしまって、自分のプレーがほとんどできなかったからでした。これからは自分の悪いところを研究して努力していきたいです。

三日目は北海道選抜のチームと試合をしました。北海道のメンバーとは全国大会などでよく戦っている人達だったから、楽な気持ちで試合ができました。

今回の試合をきっかけに、いろんな国の人達と仲良くなれたのでとてもよかったです。この交流試合に参加させていただいて、大会の運営をしていただいた方々にも感謝したいです。

千葉直也（札幌藻岩）

僕は最初、日・韓・中ジュニア交流会の選手に選ばれると思っていませんでした。なので、この大会の選手に選ばれたのがとてもうれしかった。今回選ばれた選手の中で僕だけがあまり全国大会で勝ったことがなかったので、みんなの足を引っ張るのではないかと不安でした。思ったとおり足を引っ張ってしまい、北海道チームの選手にしか勝つことができませんでした。ですが僕にとっては、韓国や中国の選手と試合をしたり、日本の他の選手と練習をしたことがとてもよい経験になりました。なので、今回僕を日・中・韓ジュニア交流会の選手として選んでくれた役員の先生方にとっても感謝しています。

韓国や中国の選手はみんな背が高く、がたいもしっかりしていてびっくりしました。試合をやってみて思ったことは、みんな足が速くボールをよく拾ってとてもしつこかったです。韓国や中国の選手とやったとき、全国大会でいつもやっている日本人の選手とは違う感じを受けました。特に中国の選手は球が重く本当にやりづらかったです。韓国の選手と試合をしたときは僕にもマッチポイントが何回かあったのでとても悔やまれる試合になりました。韓国の選手はどんなパスを打っても全部とり、とてもびっくりしました。僕もそういうところをまねしたいと思いました。

最初、僕がホテルに着いたとき、日本の選手ともあまり話をしたことがなかったので、とても緊張していました。ですが日本の選手の人たちはとても友好的だったのですぐに仲良くなれました。韓国や中国の選手とは言葉も通じないので、あまり交流ができなかったので残念でした。またこういう機会があったら、今度はもっと積極的に行こうと思いました。



川村夏美（共栄学園）

今回の日・韓・中交流戦は、日本で開催ということではあったけれど、涼しい気候で自然に囲まれた北海道という地で試合ができて、とても気持ちよかったです。

なかなか試合をする機会のない中国・韓国の選手と交流戦をしたことで、たくさんの刺激を受けました。韓国チームは、いろいろな球種を使って試合を組み立てるのが上手でした。私も自分のテニスの幅を広げるためにも、見習いたいと思いました。中国チームは、全員が170センチ以上あり、なかでも私が対戦した選手は187センチもあり、威圧感を感じさせられました。これから世界を焦点として勝負していこうと思っている私に、これからそのような体格などのハンディを背負って戦っていかなければいけないんだ、という強い心構えを持たせてくれました。

また、テニスだけでなく、日本・中国・韓国・北海道の中から選ばれた多くの競技のトップ選手たちと交流でき、それぞれが高い意識でこの交流戦に望んでいるため、とてもいい雰囲気の中で行なわれたのでよかったですと思います。

そしてなにより、この日・韓・中交流戦をサポートして下さった方々に対し、感謝の気持ちでいっぱいです。審判をしてくれた方々、ボーラーをしてくれた方々、運営を先導してくれた方々、セレモニーを盛り上げてくれた方々のおかげで、この日・韓・中交流戦があったことを深く感じています。

今回の遠征で吸収したことを、自分を成長させる原料とし、これからも頑張っていきたいと思います。

古賀愛美（筑陽学園）

私は、日・韓・中に日本の代表選手として試合に参加できたことによって、他の人には体験することができない貴重な経験をすることができました。この大会で韓国や中国の選手と試合しましたが、韓国の選手はみんな体格がよく回転を使って粘り強く球を打ち込んでくる選手が多かった。また、ダブルスもしっかりとしたボレーを決めてくるところが印象的でした。中国の選手は、長身を生かしたプレーをしてきて、サービスゲームをしっかり取ってきていました。けれど、私たち日本の選手も体格の差を感じさせないプレーをすることができました。私も、思い切ったプレーをすることができ、試合を楽しむことができました。日本人選手は、技術的にも他の国の選手に劣るところはなかったと思います。また、試合をするとき審判の方などしっかりしていて、とても試合がしやすかったです。審判の方は北海道の女子連の人たちだと後で聞いた時、本当に驚きました。

ホテルでは日・中・韓の全競技の人たちが宿泊していました。開会式や閉会式などいろいろな国の協議の人が歌ったりダンスをしたり、出し物をしました。他の国の特徴がそれ

それぞれ違って面白かったです。また、北海道の文化にも触れ合うことができました。競技や国が違って文化に触れ合うことができ、「スポーツはいいものだなあ」と実感することができました。帰りの空港で、韓国の女子選手に会い、少し話して友達になり、メールアドレスの交換をしました。この試合に来ていた選手はそれぞれの国のジュニアのトップ選手だし、年齢も近いので、また WTA の試合で会えたり、試合もできるのだと思いました。そのためにはこれからもたくさん練習をし、努力していこうと思います。また、今回の試合で学んだことを生かして、自分の夢に向かって頑張りたいと思いました。

中西未希子（園田学園）

春の高校選抜でベスト 4 に入れたことで喜んでいたので、日・韓・中の代表に選ばれたことを聞き、とてもうれしく思いました。そして私は外国人と試合をしたことがないので、ワクワクし楽しみにしていました。しかし日本代表ということでうれしい反面、スピードについていけるか、自分のテニスができるかなど、不安もありました。でも全力を尽くしたい思いで、日・韓・中までに行なわれるインターハイや全日本ジュニアで頑張ることができました。

一日目の韓国戦では背は小さいのにとってもパワーがある人と対戦しました。初日ということもありとても緊張した試合で、自分のテニスができなくなり戸惑っているところにトップスピンやスライスで攻撃されました。そして何もできなくなっている私にドロップショットを打ち、また揺さぶってきました。やはり最後まで相手のペースで、私が主導権を握ることはできず負けてしまいました。この試合で自分にパワーがないこと、テクニックがまだまだ足りないことがわかりました。

二日目の中国戦ではシングルスとダブルスに出ました。シングルスは負けてしまいましたが、徐々に自分のテニスができるようになり、攻撃することができました。そしてファイナルセットのタイブレークまで持ち込み競った試合になりましたが、最後に簡単なミスをしてしまいました。この時改めて自分の弱さを知りました。ダブルスは初めて川村さんと組みましたが、お互い実力を出すことができ勝ちに繋げることができました。

交流試合ということでみんなあまりピリピリしておらず、試合が終わった後など英語で話したり、通訳さんを通して話したり、楽しい時間を過ごすことができました。

最後になりましたが、この大会の関係者の皆様ありがとうございました。

菅村彩香（仁愛女子）

私は今回、日本の選手として選ばれ、この大会へ出場できたことにとても感謝していま

す。私は、外国の選手とはほとんど対戦したことがなく、どんなプレーをしてくるのか全くわかりませんでした。しかし、試合では、どんな状況下においても対応し、プレーを落ち着いてしなければなりません。それこそがテニスの一番難しいところであり、楽しいところであると思います。初戦の韓国との対戦は、1セット目は取ったものの、2セット目、3セット目を落としてしまいました。相手のミスがなくなり、入りだしたときに、私がしっかりそのプレーを止めなければいけません。相手の早いサイドへのボールを打ち返せる力をつけなければいけないと感じました。

しかし、中国との対戦では、自分の肩の力が抜け、しっかり深いところへ打ち分けることができ、何も考えずにラリーすることができ、風を利用して打つことができたので、勝利を得られたのだと思います。

最後の北海道の選手と対戦したときは、いつも以上にプレッシャーの強くかかった中での試合でした。その体験を自分のプラスとして生かせればよかったものを、不安というマイナスの気持ちへ持って行ってしまったので、それが一番の敗因だと思います。まだまだこれから先、プレッシャーという中で戦っていかなければならないので、どんな場面でも力を抜いてプレーできるようにならなければいけないのです。今回自分で反省した点はこれからの練習に役立て、一つでも多く改善していきたいです。

また、交流試合の運営をしてくださったレフェリーの方々に感謝しています。そして全国大会の会場ではまったく話すことのできなかつた日本の選手と、たくさん会話をし練習できたことは、本当によい経験になりました。大変よい施設のホテルへ宿泊できたこと、いろいろな人々と触れ合えたこと、この経験を生かしてこれからもさらに練習に励み、試合での課題を強化していきたいと思います。

本当にこの5日間ありがとうございました。是非また北海道へ行きたいと思います。

